



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2024

1月26日号

198
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

あけまして おめでとうございます



副会長 布川 真理子

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

この度、令和5、6年度の公益社団法人福島県診療放射線技師会副会長を務めさせていただくことになりました、医療法人伸裕会渡辺病院の布川真理子と申します。浜通り地区協議会を経て現在に至りますが、大きな波に飲まれたような感覚で、ほとんど何の経験も実績もないまま大任を拝することとなり、身の引き締まる思いです。不慣れではございますが、精一杯頑張りますので何卒ご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2024年はどのような年になるのか調べてみました。今年は甲辰(きのえたつ)で「新しいことを始めて成功する、いままで準備してきたことが形になる」といった縁起の良い年だそうです(DiscoverJapanより引用)。何か新しい趣味でも見つけようかとワクワクします。私が診療放射線技師となってから、一般撮影はフィルムからFPDへ、CTはシングルスライスからマルチスライスへ、紙カルテは電子カルテへと様々な変化を経験してきました。しかし、タスク・シフト/シェアに伴う業務拡大の流れは、まさか自分が静脈路確保の勉強、実技を行うことになるとは全く考えたこともありませんでしたので、まさに“新しいこと”といえます。(公社)福島県診療放射線技師会では告示研修を積極的に行っておりましたが、私事により昨年中にうけることが出来なかったため、今年は逃さず参加したいと思っております。会員の皆様にも、今年ぜひ何か新しいことにチャレンジして頂きたいと思っております。

また、昨年の福島県診療放射線技師学術大会は現地開催されるなど、対面での勉強会や研究会も増えて参りました。今年はさらに増えるのではないかと思います。“いままで準備してきたことを形”にして、学術大会で発表してみるのにも良い年だと思いますので、どしどし演題をお寄せください。ハイブリット開催やWeb開催も、なかなか家を空けられない身としてはとてもありがたく、よく参加させていただいたので、新しい勉強会・研究会の形として残ってほしいと願っています。

最後に、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となってから初のお正月になりました。久々に親戚が集まったり、新年会に出向いたり賑やかな年明けをお迎えの方も多いと思います。一方、インフルエンザ、新型コロナウイルスともに患者数が増加しており、当院でも小規模ながらクラスターが発生することも未だあり、まだまだ油断できないと感じています。会員の皆様も体調を崩されませぬようご自愛ください。

本年が会員の皆様にとって幸福あふれる1年となりますよう心からお祈り申し上げます。

福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 大 葉 隆

平素よりお世話になっております。2022年（令和4年）4月に、診療放射線科学科の教員として着任いたしました大葉と申します。自己紹介として、私は、福島県本宮市生まれになります。福島県立医科大学附属病院へ、2006年（平成18年）4月に入職いたしました。その後、福島第一原子力発電所（福島第一原発）事故を受けて、教員の道へと進むことになりました。入職以降、本学附属病院の先輩や後輩の皆様、また、会員の皆様より、いつもご指導を賜り、誠にありがとうございます。

今回は、加藤学科長より大変ありがたい指名をいただき、この場を借りて、会員の皆様へ本学科のご報告とICRP（国際放射線防護委員会）の国際シンポジウムに関する紹介の2件を記載させていただきます。

1件目として、本学科のご報告になります。本学科は2021年度に1期生を迎え、今年で3年目になります。そのため、1期生は、来年度卒業の年となります。来年度は2024年4月から7月まで、週に3日間、臨床実習で福島県内の医療施設4か所を訪問することになります。1期生は、臨床実習の本学科の先駆者となるため、今から、ドキドキしている学生もいるかもしれません。そして、1期生と同じく、我々、教員も臨床実習へ学生を送り出すため、こちらにも不備が無いよう、急いで準備をしている状況になります。加えて、多くの1期生の重要イベントとしては、就職活動になります。求人票を見て、自分で就職したい場所や施設を決定して、入職試験を受けるといった流れが、1期生としてどこまで対応できるのか、我々としては、大変心配に思っている部分があります。もし、就職活動の中で、本学科の1期生を見られた会員方がおられましたら、ぜひ優しく言葉をかけていただければありがたく存じます。（もちろん、採用に関しては、厳しく本学科の学生を他大学の学生と比較して吟味していただきたく存じます。）教員としても、1期生を精一杯応援していきたいと思っております。会員の皆様方におかれましては、本学科の1期生だけでなく、本学科の教員へもご指導をお願いできればありがたく思っております。

2件目としましては、ICRPの国際シンポジウムに関する話題になります。2023年11月7日－9日の日程で、東京のグランドニッコー東京台場にて、第7回ICRP2023国際シンポジウムが開催されました。この国際シンポジウムの全体テーマは、「放射線防護の進化：科学とその先へ」でした。シンポジウムの中では、国際的に有名な先生方のプレゼンテーションや研究のポスター発表がメインでした。シンポジウムのプレゼンテーションは、放射線防護体系の見直しや改訂が多く実施されている中で、放射線防護分野を次世代に導く、次の勧告（パブリケーション）の紹介が多くございました。特に、1日目午前のシンポジウムでは、放射線防護に関する放射線計測だけでなく、被ばくに関する心理的な支援の役割や情報提供に基づくコミュニケーションなどでした。さらには、福島第一原子力発電所事故の教訓として、住民との丁寧な対話やステー

クホルダーによる住民支援の重要性が取り上げられておりました。ステークホルダーとは日本語で利害関係者となりますが、放射線防護分野でのステークホルダーとは、医療従事者や教職員、NPO職員、行政職員などの社会の中である一定の役割を有している職業人という考えになります。このステークホルダーが原子力災害時に、住民の放射線防護活動に貢献することが重要であるとICRPでは考えております。特に、医療従事者は、原子力災害における住民支援だけでなく、医療施設での日常業務における患者への医療被ばくへの説明など、幅広く放射線防護の説明が求められます。このように、放射線防護分野では、今後も大きな変化が続いていくと思われまます。ちなみに、次回のICRPの国際シンポジウムは2025年にUAE(アラブ首長国連邦)で開催予定です。

また、私も第7回ICRP2023国際シンポジウムにて、ポスター発表をいたしました(写真1)。その内容は、「みまもる健康アプリ」という、スマートフォン(スマホ)のアプリケーション(アプリ)の試験運用に関する報告でした。「みまもる健康アプリ」の活用目的は、福島第一原発事故で避難を経験した自治体を中心に、その自治体の住民(避難している方や帰還された方の両方)と自治体保健師や保健医療従事者(クリニックの医療者など)をデジタル上で結びつけることとなります。もちろん、アプリですので、スマホで簡単に活用することが可能です(写真2)。このアプリの機能としては、大きく2項目あります。第1項目は、放射線の記録として、地域の放射線の外部被ばくに関する情報や内部被ばくの検査結果の記録になります。放射線の記録に関するアプリ機能は今までアンドロイド[®]やiPhone[®]で報告されておらず、我々は研究として、新たにゼロベースから開発を行いました。また、第2項目は、体重、血圧、体温、飲酒、喫煙、運動などの健康の記録機能になります。このような機能は、「みまもる健康アプリ」よりも高機能なアプリが存在します。



写真1 第7回ICRP2023国際シンポジウムにて大葉がポスター発表を説明



写真2 「みまもる健康アプリ」のメニュー画面

しかし、このアプリは、これらの健康記録と日記機能（今日は笑ったか？今日は幸せだったか？良かったことを3つ記入など）とリンクさせることにより、個人の心の健康と体の健康状態を包括的に評価できる機能になっております。「みまもる健康アプリ」を用いた記録は、自治体保健師や保健医療従事者などでログイン情報を付与された方が、WEB上で閲覧可能であり、個人に特化した放射線防護のアドバイスや健康サポートを実施することができます。

この「みまもる健康アプリ」ですが、現在、試験運用中であり、住民の方や自治体の保健師さんなど多くの支援を受けながら、このアプリを育てている最中になります。ぜひとも、ご興味がございましたら、私と一緒に「みまもる健康アプリ」を育てていきましょう。

以上になります。最後になりますが、毎日寒い日が続きます。春が待ち遠しい感じですね。会員の皆様におかれましては、健やかに過ごしてください。

～ 県会長 + JART地域理事 「オンレコ」 ～

1 「メディカルクリエーションふくしま2023 開会式」 11月1日

毎年、開会式には招待いただき参列しています。福島県は医療機器等の製造が全国2位で、県も力を入れて応援をしています。

2 「第13回東北放射線医療技術学術大会 (TCRT2023)」 11月3日－4日

前日には、東北会長会及び教育委員会を開催しました。その後の大会役員会にも参加しました。演題数も多く参加者も多数で活気のある大会で、久しぶりの情報交換会も大いに盛り上がりました。また福島県立医科大学保健科学部の学生も参加していて、挨拶と名刺交換を行いました。後日に丁寧なメールをいただきました。

後日、東北会長とプログラム委員とで投票を行い、上位6題にたいして学術奨励賞の受賞者となりました。受賞した演題はどれも技師会らしい素晴らしい内容でした。

3 「JART第5回理事会」 12月2日

ハイブリッド開催でしたが、Web参加をしました。第1回日本放射線医療学術大会（沖縄県開催）、STAT画像等のガイドラインや学生向け告示研修についての議題を進めました。東北地域からは告示研修についての今後について報告・質問を行いました。

4 「第1回東北地域企画委員会」 12月5日

TCRTでの企画に関して、以前のコーディネーターを解散し白紙に戻してのスタートとなりました。各県2名の委員（福島県からは続橋氏と大原氏）を選出して、委員長と副委員長を秋田県から選出をしました。次回のTCRT2024の秋田開催までは時間がなくタイトなスケジュールで企画を検討して行きます。次回は1月10日に会議を予定しています。

【記念誌発行委員会より】

「公益社団法人化10周年、福島県診療放射線技師会 創立75周年記念誌」の発行において、事業所ごとに会員名を掲載する予定です。

つきましては掲載をご希望されない方は、ご連絡をお願いいたします。

連絡先：記念誌発行担当 鍵谷 勝

(総合南東北病院 診療放射線科)

TEL：024-934-5322 (代表) (内線 8292)

Mail：m.kagiya@mt.strins.or.jp

期限：令和6年2月末

地区だより

会津地区

「第109回会津画像研究会」開催

令和5年12月19日(火)に竹田総合病院とWebによるHybrid開催にて行われました。今回はMRIをテーマとし、2つの演題発表がありました。

演題1「MRIトレンドにおけるGE-MRIの最新技術紹介～頭部領域を中心に～」と題し、GEヘルスケア社MRI部 吉野 要氏より、ディープラーニング画像再構成技術である「AIR Recon DL」についての技術説明と3DシーケンスでのDL有無の比較画像を提示して頂きました。また、頭部領域における最新技術を教示して頂きました。

演題2「当直帯の検査で知っておきたい頭部の疾患～MRI編～」と題し、会津中央病院 小沼慎一郎氏より、「脳卒中とは」から始まり、通常シーケ

ンスと追加シーケンスの説明、CTも含めたシーケンス毎の脳出血の経時変化など、基本に戻って分かりやすく説明して頂きました。急性期は患者をよく観察し、とにかくスピード重視、綺麗な画像より診断できる画像を撮像することが重要であると話していました。

今回の演題発表で得た知識を自施設での今後の検査に活かしていきたいと感じました。



小沼氏（左）と司会の竹田総合病院 早川努氏、Webより

(風間)

編集後記

謹んで初春のお喜びを申し上げます。

コロナも5類となり、落ち着いてきたかのように思えますが、医療においては、まだまだ油断ならない状況が続くといった所でしょうか。今後も、感染対策に心掛けていきたいと思っております。今回、初めて編集に携わりました。広報編集委員会の皆様、至らぬ点もあったかと思いますが、ご協力ありがとうございました。

(清野)